



しむら ともひこ
志村 知彦 さん

(三字)



●避難先●
長野県茅野市

都会暮らしの中で

都会のサラリーマン家庭に育ち、小学生の頃、父の海外転勤で約3年ほどロサンゼルスで生活したことを除いては、町田市や相模原市など、東京近郊のベットタウンで生活していました。

学校を出てから、満員の通勤電車に揺られ自宅と都心にある勤務先を往復する日々を送っていましたが、コンクリートに囲まれた雑踏ではなく、自然に囲まれた生活に憧れを抱くようになりました。また、その頃、妻との出会いもありました。

結婚直後に双葉町へ

結婚後は、妻の住んでいた長崎県への移住も検討していましたが、できるだけ両親の近くにいたいとも考えるようになりました。

そうした中、仕事のリタイアとともに先に双葉町に移住していた妻の両親が「いい所だよ」と声をかけてくれました。そうした縁もあり、私たちも結婚後間もなく前田団地に入居し、町での生活をスタートさせました。

私は南相馬市内で、妻は大熊町内で働きながら、休みのときは自然の中で二人でゆっくりとした時間を過ごす、充実した日々を送ることができました。中でも、相双地方の海と山そして満天の星空は、都会育ちの私たちにとって、他に代え難い豊かさの象徴でした。

親しい地域のお付き合い

都会とは違った近所との接し方に戸惑いを感じたこともありました。初めのうちは、日頃のあいさつや回覧板をまわす程度でしたが、気がつくとお互いにお裾分けをしあったり、まるで、長年の知人・友人や親戚のように親しいお付き合いでした。

震災の半年前より団地の組長を務めていました。原発事故による避難では、団地内で移動が困難なお年寄り2世帯と共に町を離れ、それぞれ、川俣町の避難所と関東地方の親類のもとにお連れすることができました。そのうち避難所に送った方とは、後日、さいたまスーパーアリーナを訪ねた際に再会し「息子が来た」と喜ばれたときには、無事を安堵したと同時に、胸にこみ上げてくるものを感じました。

町の姿は変わっても

現在、妻や私の両親とともに生活しながら、写真を撮るのとイラストを描くのが好きなことを生かして、グラフィックデザイナーの仕事をしています。

先月、前田団地の解体が始まるのを前に、約10年ぶりで双葉町を訪れました。地域の姿は大きく変わってしまいましたが、素敵な思い出をいただいた双葉町には、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、これからは、デザインなどの得意分野を生かして、町の復興にお手伝いできればと思っています。